

同 文

昭和七、六、

六、四、二、三〇  
七、三〇、〇

陸軍次官宛

東京軍部局長

L2223  
陸軍五二〇

滿洲國ノ現情ニ就テ此ノ際大連國ヲモ含ム各機關  
ノ接交ヲ行フコトハ當然ニシテ而モ惡化ヲ長スル  
事頂ナルカ滿洲國ヲ支持スル大方針ニ依リテ左記  
滿洲國ノ意見ヲ採用シ実行施ラ取極シ一貫シテ鞏  
固ナル支持ヲ與フルコト最良ナリト認ム尙本件ハ  
滿洲國側ノ受施施ハ他國通過ヲ長スベク又日本  
官、森田總領事代理、日本大連局長ニ於テモ十分  
諒解シアリ付得合ヒアリ度

左 記

一 滿洲國前政ハ治安維持費ノ爲諸國借款ノ輸入  
見積六千四百萬元ヲ實現スルニ重大ナル困難ニ  
遭遇セリ而モ右金額中ニハ千九百萬元ノ國稅收  
入及約千萬元ノ阿片賣入ヲ許上シアルヲ以  
テ右兩者ヲ急遽ニ處理シテ輸入ヲ零クルニ非サ  
レハ輸出見積九千三百萬元ニ達セテ如何トモス  
ベカラサル境地ニ在リ

仍テ此際ニ于テ大連國ヲ含ム全滿洲國ノ  
長ノ待遇及分ヲ保シシ外債擔保部分ヲ除キ現  
ラ彼ムル方針ニテ入手セントス此中大連局長  
ハ全滿洲國輸入（二千四百萬圓）ノ半額ヲ

占メ滿洲ノ資源スベキ外債ノ担保額等（約五百  
万兩）ヲ超過スルコト七百万兩ニ達スル見込ニ  
符同シテ決定シテ便令他國全部ノ貸入ヲ取替ス  
ルモ滿洲國トシテ年額七百万兩（四半不償）ヲ  
受ケ忍ビ且キニ付万兩ヲ拂シテ同額ヲ入手セシ  
トス

此モ實に滿洲中南京カニ三會聯合會ニテ決定セ  
ラレタル第一案ニ對シタル聯合ニハ之ニ同意ス  
ル所無アリ

ハ大連國境線ノ方法ハ日英ヲ滿洲國ニ懸念ラシメ  
英露若シ或部領カ新日英ヲ派シテ別ニ往來ヲ行  
ハントシ更ニ全滿洲國領ヲ以テ日マントスル  
カ如キ聯合ニハ已ムナク瓦房店等ニ於テ監視ス  
ル等ヲ以テ監視シ大連ニ於ケル支那ノ勢力ヲ永  
泡ニ留セシムルト同時ニ露メ手取ノ上一等ニ大  
連國ヲ含ム全滿洲國ノ日英ヲ任命シ監視セント  
ス

ハ英露聯合日本政府カ露テ友誼的態度ヲ持テ大連  
ニテ滿洲國カ監視等ヲ處理スルコトヲ承認セ  
ラレ先方ノ監視等ノ結果滿洲國ノ領土ヲ妨害セ  
ラレサラシコトヲ希望ス

英露ノ聯合ニ於テモ日英ニ對シ日本及滿洲國ヲ  
不利ノ地位ニ置ルルモノニ非スト懸念ス英露兩  
國ノ知シ

(イ)滿洲ノ國キヲ忍ビテ受入レシトスル第一案ハ  
「メヒス」ノ新聞「カスタム・インテグリティ」

ヲ保ツ所以ニシテ商人ニ於テ利益ヲキニ爲ラス  
南京カ彼ヲ反シ受領ヲ妨ケ居ルヤニ當ケラレ  
滿洲國今同ノ決意ハ已ムヲ後サル示領ノ手段ニ  
シテ決ヘ全ク先方ニ在リ

(ロ) 日本カ決定セスハ滿洲トシテ大連ニ歸スル行  
爲ヲ承認スル猶ナク更ニ是ニテは彼ヲ承認セザ  
ルヲ得サルヲ以テ日本トシテ大連開港行爲ニ  
對シテ自前上ヨリ滿洲國ノ大連ニ於ケル行爲ヲ  
承認セサルヲ得サル爲合トナル又日本カ其受領  
ニ滿洲國ヲ承認せし居ル今日日本トシテ大連  
國ヲ受領的ニ滿洲國境開ト見候シ得ケク更ニ案  
ノ如ク其カ滿洲國ニ忠誠ヲ誓フ場合ニハ何更ニシ  
テ日本カ滿洲ノ行爲ヲ承認スルモ滿洲國決定ニ違  
反スルモノト言ヒ得ルヤ疑問ナリ

(ハ) 受領ハ滿洲ヲ受領的ニ承認せしアル日本カ  
滿洲財政上經濟必要ナル大連開港決定得ケニ違  
反スル兵フルハ自然ト解スベシ

(ニ) 聯盟ノ福東出役ヲ得ツカ如キ財政ノ許ササル  
所ナルノミナラス滿洲國カ所ノ如キ自前上ナル  
財政上ノ緊急措置ニ出ツル上ニ於テ滿洲國等  
ニ無関係ノ兵ナク寧ロ聯盟ノ存在中之ヲ遂行シ  
滿洲ノ獨立性ヲ維持シ且滿洲國決定ニ當スル日本  
及滿洲國ノ行キタル決意ヲ示スヲ有期ナリトス  
ト云スルニ滿洲國ハ大連ニモ他ノ如ク滿洲ニ歸  
屬スルモノナルニ對シテ同ノ如ク滿洲ニ對  
シテ其決定カ不違ニ決定セラルベシ

思と居り仍て日本が今直ニ滿洲國の正統ニ承認  
 シ以テ同國を同國ニ可成ヌニ於テく既國ナカヌ  
 くキモ皆シ何等の關係ニテ承認スルノ必要ニ  
 へ滿洲國ニ直シ大ノ支拂ヲ與ケラヌノコト必  
 要ナリ

不 出